

# 北海道在宅歯科医療連携室事業

## 第2回在宅療養支援サポート研修会のご案内

札幌歯科医師会では、北海道在宅歯科医療連携室事業の実施に伴い、地域包括ケアシステムの構築や地域支援事業への参画を推進しております。地域包括ケアの推進に係る医療介護の連携には、医療従事者や介護従事者とともに共通認識を持つための研修会の充実が必須とされていることを踏まえ、この度歯科職種を始め、医療・介護従事者などを対象とした研修会を開催することと致しました。

全国でご活躍の新田先生の講演を拝聴する絶好の機会です。皆様のご参加をお待ちしております。

**日時：令和元年11月2日（土） 午後2時～4時**

**場所：札幌市中央区南7条西10丁目 札幌歯科医師会館 5階大講堂**

**講師：東京都 医療法人社団新田クリニック**

**理事長 新田 國夫 先生**

**演題：『食べることの意味を問う』**

**定員：150名（先着） ※別紙にて下記申込受付期間内に必ずお申し込みください。**

**※申込受付期間：10月1日（火）～10月25日（金）**

※当日は混雑が予想され、駐車場のスペースにも限りがありますことから、公共の交通機関にてお越しいただきますようご協力をお願い致します。

※定員に達していない場合は、こちらより特段のご連絡は致しませんので、当日直接会場へお越しください。定員を超え、参加をお断りする場合のみご連絡をさせていただきます。

**研修会概要：**超高齢社会における食べることは生活の満足度であり、生きがいでもある。高齢者が出来る限り最後まで口から食べることができることを他職種を含めた家族、本人が共有することが理想とする地域社会の実現です。今、わたくしたちが目指している地域社会の実現とは、個々の物語の集積と健康寿命の増進を目指したポピュレーションアプローチを手段として考えています。口から最後まで食べることは、一人一人の物語を丁寧に拾い上げていくこと、そして実践していくことであり、改めて価値あるものと、することです。それだけでは地域の健康格差は継続します。最後まで口から食べることの重要性とは何を意味するのでしょうか。口から食べられなくなったら私たちはどうしますか、医療手段を選択することは容易です。医療手段を選択するのは誰でしょうか、その人は選択するにふさわしい人でしょうか、今食べられないことは本当にその人にとって最後の段階なのでしょうか。今高齢者は在宅にて、衰弱と死は高齢者にとって必然であるが、私達は生きる限りその必然を許容しなければならない。遺棄される死ではなく、豊かに生きる死である。そのためには医療関係者、介護関係者は遺棄するものと共犯者になってはならない。

### 新田 國夫 先生 ご略歴

1967 早稲田大学第一商学部卒業

1979 帝京大学医学部卒業

帝京大学病院第一外科・救急救命センターなどを経て

1990 東京都国立市に新田クリニック開設 在宅医療を開始

1992 医療法人社団つくし会設立 理事長に就任し現在に至る

資格・公職等

医学博士、日本外科学会外科専門医、日本消化器病学会専門医、日本医師会認定産業医

全国在宅療養支援診療所連絡会会長、日本臨床倫理学会理事長、福祉フォーラム・東北会長、福祉フォーラム・ジャパン副会長、日本在宅ケアアライアンス議長

お問合せ先：札幌歯科医師会 担当 木本 恵美子 電話 011-511-1543